

<教育報告>

健康づくり推進員による住民主導を目指した 地域保健活動の促進要因に関する研究

大橋俊子, 岩本葉子, 亀山敦子, 西芦谷真紀, 早田紀子, 東美希, 木村弘士

平成16年度合同臨地訓練 第2チーム

A research on factors facilitate community health activities by voluntary health workers under the citizen's initiative in Adachi Ward, Tokyo

Toshiko OOHASHI, Yoko IWAMOTO, Atsuko KAMEYAMA, Maki NISHIASHIDANI,
Noriko HAYATA, Miki HIGASHI, Hiroshi KIMURA

I はじめに

健康づくり推進員（以下、推進員とする）による健康づくり活動は全国的に展開されているが、東京都足立区は、自主的な健康づくり活動を支援するために積極的に推進員制度を実施している。

その中で足立区千住管内あずま住区は、古くから商業を中心に栄えた「歴史と文化の町」で、他地域に比べ人口の流入が多くない。また高齢化率が21.3%と高いことから、今後福祉の需要が高くなることが問題となっている。そこで、一次予防の一環として、推進員が中心となって地域での健康づくり活動をすすめているが、今年度地域の健康づくりを進める会として、推進員をはじめ、千住保健総合センター、千住あずま住区センター、地域の関係者からなる「千住あずま住区健康づくり世話人会」を立ち上げたところである。

今後さらに地域に根ざした予防活動としての健康づくり活動が、継続して行われるために、住民主導による健康づくり活動を円滑にすすめるための要因を、推進員活動から探ることとした。

II 研究の概要

1 推進員の状況

足立区の推進員制度¹⁾では、住区センターからの代表として任命される住区推進員と、千住保健総合センターの健康づくりに関する自主グループからなる保健所推進員の、2通りの選出による推進員があり、2年を任期とし、更新2回までで最高6年間活動できることになっている。

今回研究に協力していただいた、あずま住区推進員は5名の女性で、平成12年度に任命されて初めて健康づくり活動に

関わり、現在活動5年目となる。

これまでの主な活動として、1年目は研修等の受講のみで、2年目から4年目は年2回の健康講座や実習の企画・運営、マップ作成等であった。5年目の今年度は前述の世話人会のメンバーとして推進員が中心となって、糖尿病予防を目的とした、月1回、年間継続型の健康講座として「健康大学」を実施している。

2 方法

住民主導の健康づくり活動の促進要因を検討するために、「住民主導についての検討」と「推進員活動についての検討」が必要と考え、方向性をさぐるためにまず行動（情報収集）し、そこから得られた結果で次の方向性にむかって行動する（インタビュー）という、段階的な経過をたどった。

【住民主導についての検討】

推進員活動を把握するために情報収集をした結果、「現状のあずま住区における推進員活動は住民主導とはいえないのではないかと考え、住民主導のモデルを検討し、そのモデルについて推進員や保健師の意見を半構造化面接（以下、インタビューとする）で確認した。

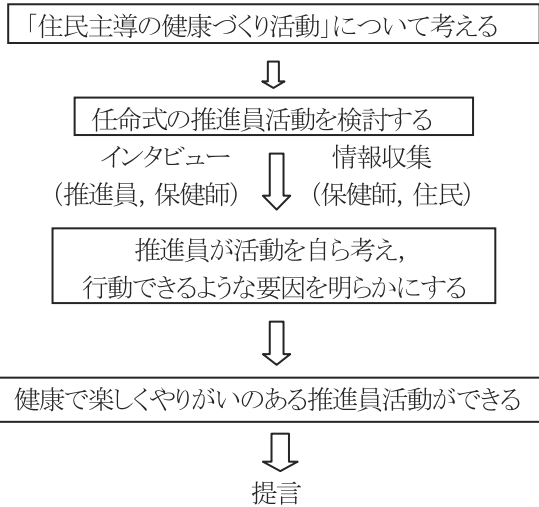
【推進員活動についての検討】

推進員活動を把握するために情報収集をした結果、平成12年度の活動当初は「やらされている活動」という印象があった。そこで、推進員活動の阻害・促進要因を探るため、推進員にインタビューやアンケートを実施した。

また、住民の推進員活動に対する認知を確認するため、健康大学参加者や自治会長へのインタビューを予定した。しかし、健康大学参加者へのインタビューは、台風により健康大

指導教官：武村真治、曾根智史（公衆衛生政策部）

鳩野洋子（公衆衛生看護部）



学が中止となったため実施できなかった。

さらに、行政の推進員へのかかわりを把握するために、保健師にインタビューを実施した。

Ⅲ 結果及び考察

1 住民主導について

住民参加・住民主体については様々な議論がなされているが^{2,5)}、住民主導という言葉はほとんど使われていない。そこで、住民主導の健康づくり活動を「住民である推進員が主体的に活動を行うこと」とし、「住民主導は住民主体と同じである」と位置づけ、さらに図1のように推進員が住民と行政をつなぐパイプ役であり、推進員・住民・行政の3者が互に関わり合うことが、住民主導の推進員活動であると考えているにいたった。

この視点からあずま住区の活動を見ると、図1のように3者が円滑に関わりあうのが理想であるが、「推進員と住民の関係が少し弱いのではないか」と感じ、推進員と住民の関わりを強くするための要因を検討した。

まず、健康づくり活動では、住民と推進員の関係は図2のような4段階（以下4コマ図）で表せると考えた。

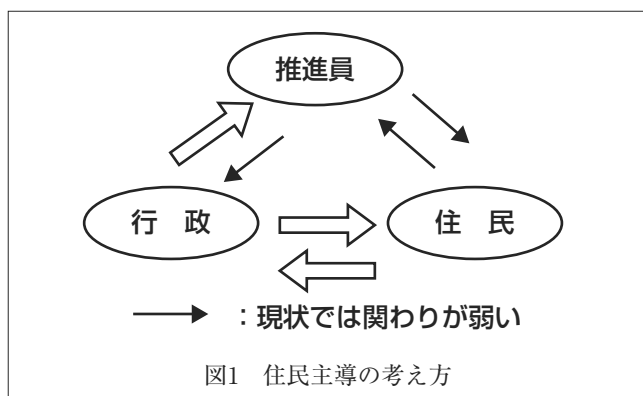
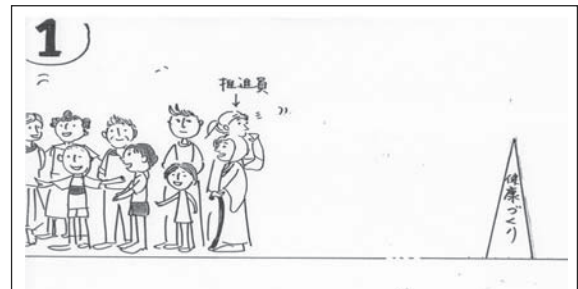
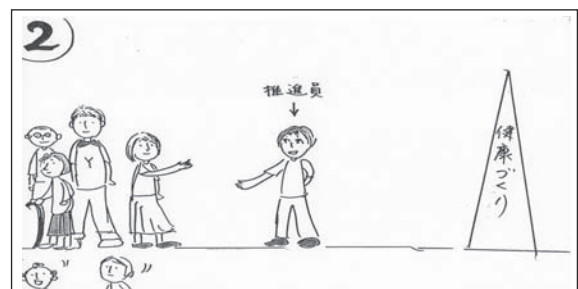


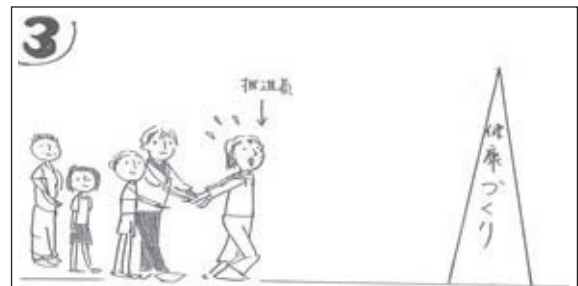
図2 住民と推進員の関係 (4コマ図)



【1段階目】推進員は健康づくりに向かって進んでいきたいと考えているが、住民は全くその方向に向かっていない。住民はいろいろな方向を向いている。



【2段階目】推進員が健康づくりに向かうように住民を導いているが、ついていこうとする住民は少数である。ほとんどの住民は興味を持っていない。



【3段階目】推進員とともに健康づくりに向かっている住民が増えてきた。推進員は住民を一生懸命導いている。またその姿を見て興味を持つ住民もいる。



【4段階目】推進員が住民を一生懸命導く必要はなく、推進員と住民がともに健康づくりに向かって進んでいる。
「住民の 住民による 住民のための健康づくり」

これについて現在の推進員活動がどの段階か、そして今後目指したい推進員活動はどの段階かを推進員と保健師に確認した結果、表1のようになった。

表1 推進員活動の段階認識

	推進員 (5人)	保健師 (3人)
2段階目	★	★
2と3の間の段階	★	★ ★ ★
3段階目	★ ★	
4段階目	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○

★ 現在の推進員活動の段階

○ 今後目指したい推進員活動の段階

また、保健師から、「私たち保健師は黒子役でなく、常に住民と推進員のそばにいて、それぞれが役割をもって健康づくりをすすめていくのが理想」という回答も得られた。

これらのことから、「住民主導を目指した健康づくり」の考え方は、推進員、保健師ともに同じであるが、現状はまだ、「推進員と住民がともに健康づくりに向かって進んでいる」という段階には達していないということがわかった。

そこで、今後目指す推進員活動に近づくためには、『推進員が普段の生活の場において、住民とコミュニケーションをとり、住民が健康について考えるきっかけを作っていくことが必要である』と考えた。

2 推進員活動について

推進員活動を検討していく上で、推進員がこれまでの活動を振り返り、活動の意義を見いだしてもらうため、推進員への4項目をインタビューした。

質問1 推進員に選ばれたときにどんな事を感じたか。

- ・推進員を知っていたか
- ・推進員に任命されてどのように思ったか

質問2 自身の推進員活動についてどのように感じたか。

- ・活動していて良かったこと、悪かったこと悩んだこと、したいけどできなかったこと
- ・推進員個人として何か活動しているか（近所の人への声かけなど）

質問3 推進員活動全体についてどのように思うか。

- ・自分の地域の推進員活動をどのように思うか

質問4 今後の推進員活動についてどのように考えているか。

- ・残された任期の中でこれだけはしたいと思うことはあるか
- ・これからの推進員にどのような活動をしてほしいか

さらに、インタビューから推進員それぞれの気持ちが、時系列に変化していることが明らかになったため、斎藤・島内ら⁶⁾の「浮沈図記録票」を模した、気持ちの変化を時系列に線で表現する「浮沈図」を推進員それぞれに描いてもらい、

模式化した。

2-1 推進員活動の阻害要因について

インタビューの結果から、「何がなんだかわからなかった。」「最初は保健所のお手伝いと思っていたのに、お手伝いではなかった。」「こんなはずじゃなかった。」「私でいいのかな。」など、任命当初の推進員活動に対する不安や不満な思いがわかった。

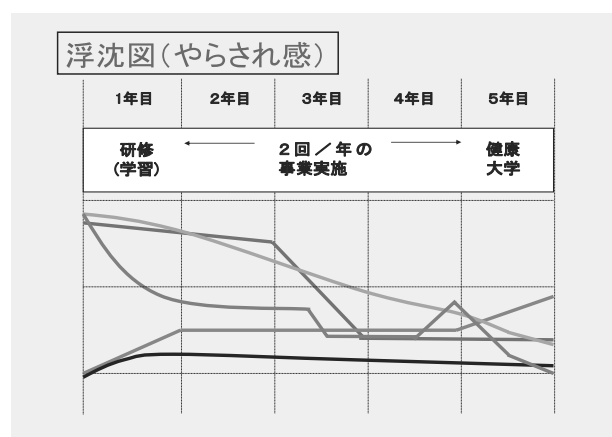


図3 浮沈図（やらされ感）

図3の浮沈図からは、5人のうち3人は「やらされ感や大変さ」は、1年目に高い位置にあるが、2年目から4年目にかけては下降していることがわかった。

また、「任命当初の関わり」を明らかにするために実施した推進員へのアンケートの結果から、全員が1年目に、行政から活動内容や活動意義などの情報を得ているにも関わらず、さらに「推進員の方向性」についての情報を求めていることが明らかになった。

そこで、推進員活動の阻害要因として、任命時に引継がなかったことや、1年目の活動に関する情報不足が考えられ、『推進員が1年目に、明確な目的や課題を持てるように、先輩推進員と共に活動できる体制や、推進員が技術や地域のことを把握できるような体制が必要である』と考えた。

2-2 推進員活動の促進要因について

前述の推進員へのインタビュー結果から、「お客さんでいいと思っていたが、そうではなくて、自分たちでやることだと気がついた。」「地域とのつながりができた。」「参加者の反応で嬉しさを感じた。」などと思っていることがわかった。

図4の浮沈図から、推進員5人とも活動の2～4年目において、「やる気」「達成感」「やりがい」などの満足感が上昇していることがわかった。つまり、推進員は1年目では不満や不安の気持ちを抱いていたが、2年目以降には推進員自身が事業の企画・運営を実施することで自信となり、また事業に参加した住民からの反応により、推進員活動がより発展していったことがわかった。

そこで、『推進員活動には推進員の自主性を尊重し、推進

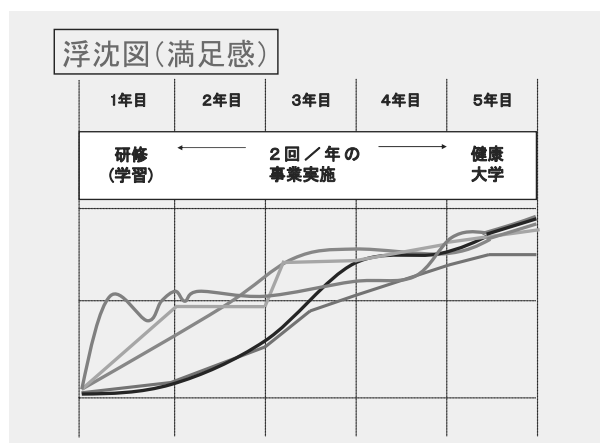


図4 浮沈図（満足感）

員自らが活動を考え、実践できるような機会や場の設定が必要である』と考えた。

2-3 推進員及び推進員活動の認知について

前述の推進員へのインタビュー結果から、「地区の人は、私個人が推進員をしているということを知らない。」「地域で推進員というのがまだわかっていない。」「健康づくり推進員は地域に浸透していない。」と推進員が思っていることがわかった。

また、自治会長からの聞き取りから、「今年の4月に就任して初めて推進員の存在を知った。」という言葉が聞かれ、推進員活動が地域の住民にあまり知られていないことが示唆された。しかし、現在では推進員の活動を知ることによって、「今後も推進員が先頭に立って活動していったらいい。」というように、推進員に期待していることがわかった。

この結果から、現在も機関誌や広報誌などで推進員活動を紹介しているが、『さらに周知の必要がある』と考え、また町会・自治会の立場として、『推進員活動についてより理解を深め、地域にその活動を周知する』ことが必要だと考えた。

Ⅳ 提言

任命式で選出された住区健康づくり推進員が、住民主導として『住民の 住民による 住民のための 健康づくり』の健康づくり推進員活動を効果的に進めるために、以下を提言する。

【行政に対して】

- 1) 推進員が1年目から先輩推進員と一緒に推進員活動を体験しながら、技術や地域のことを把握できるように、引継期間の設定や推進員の研修を充実する
- 2) 推進員の自主性を尊重し、推進員自らが活動を考え、実践できるように、足立区の健康課題や地域の状況等を推進員に提示し、実践する機会や場を提供する
- 3) 健康フェスティバル等の実施時や、機関誌・広報誌などで推進員活動をさらに地域へ周知する

【推進員に対して】

- 1) 推進員は技術や地域の事を把握できるように、1年目から先輩推進員と一緒に推進員活動を体験する
- 2) 推進員活動をしていく中で、健康づくり事業の実施とともに、身近な人たちが健康に関する知識や情報に関心を持つように働きかけ、住民と共に進んでいく
- 3) 行政からの情報提供や、推進員個人のネットワークを活用した情報をうまく結びつけて、自らが活動を考え、実践する

【自治会・町会に対して】

- 1) 地域の健康づくりのための推進員活動についてより理解を深め、地域にその活動を周知する

おわりに

7月の合同臨地訓練開始時点でチームとして確たる方向性がないまま進んだため、様々な疑問にぶつかり、その都度解決方法を模索したことから、得られた膨大な情報を少ない論点でしか論じることができなかった。

住民主導の健康づくり推進員活動の效果的要因分析として、さらに住民側のニーズや地域の状況（各町会からの推進員の選出等）を加味した、多方面からのアプローチで要因を分析することができれば、得られた情報を有効に活用し、フィールドに還元できたと思っている。

謝辞

大変お忙しい中、ご協力していただきました、千住あずま住区健康づくり推進員の皆様、千住保健総合センターの職員の皆様、自治会長をはじめ健康大学に参加されている千住あずま住区の住民の皆様に深く御礼申し上げます。

引用文献

- 1) 足立区健康づくり推進員 手引き, 2004.
- 2) 宮坂忠夫, 編. 地域保健と住民参加. 東京: 第一出版; 1983.
- 3) 特集 保健婦がしばしば使う用語を考えるー住民参加・住民主体. 保健婦雑誌1993; 49 (13): 1074-108.
- 4) 特集 住民参加型保健福祉事業をどう構築するかー計画策定プロセスへの住民参加を中心に. 生活教育 2002; 46 (1): 7-61.
- 5) 特集 健康な地域づくりにおけるヘルスボランティアーその養成と活動支援をめぐる. 生活教育2002; 46 (8): 6-54.
- 6) 斎藤進, 小山修, 島内憲夫, 他. 地域組織活動の活性化と強化に関する研究 (その2)「浮沈図記録票」を用いた地域保健組織活動の診断と評価. 日本公衆衛生雑誌 1991; 38 (10): 262.

参考文献

- 7) キャサリン・ボープ, ニコラス・メイズ, 編集. 大滝純司, 監訳. 質的研究実践ガイド: 保健・医療サービス向上のために. 東京: 医学書院; 2001.
- 8) 安梅勅江. グループインタビュー法—科学的根拠に基づく質的研究の展開—. 東京: 医歯薬出版; 2001.
- 9) みんなでつくる健康あだち 21 ～地域自主グループ 220～. 2002.
- 10) みんなでつくる健康あだち 21 活動報告. 2002.
- 11) みんなでつくる健康あだち 21 活動報告. 2003.
- 12) 佐々木峯子. 住民主体の活動が健康な地域をつくる. 月刊地域保健 2003; 34(4): 5-21.
- 13) 永田素子, 馬場優子, 藤泉恵子. 足立区の地域健康づくり活動における健康づくり推進員の支援育成について (その1 経過について). 東京都衛生局学会誌 1999; 102: 238-9.
- 14) 馬場優子, 永田素子, 藤泉恵子. 足立区の地域健康づくり活動における健康づくり推進員の支援育成について (その2 活動をすすめた要因について). 東京都衛生局学会誌 1999; 102: 242-3.
- 15) 武口由弥, 多田久子, 吉岡京子, 他. 健康づくり推進員を中心とした地域における糖尿病予防教室の実施報告. 東京都衛生局学会誌 2001; 105: 418-9.